

6月18日(木曜日)「自分の日を数えて」

【新改訳 2017】

詩篇 90・1-17

「私たちの齢は 70 年。健やかであっても 80 年。しかも、その誇りとするところは労苦とわざわいです。……それゆえ、私たちに自分の日を正しく数えることを教えてください。そうして……知恵の心を得させてください。」
(10-12 節)

高齢化社会と言われる今日、この詩篇はどのように受け止められるでしょうか。考えてみれば不思議に思います。今、平均寿命が女性は約 82 歳、男性は約 75 歳ですが、これで高齢化社会と言われているわけです。

ところが、この詩篇は今から約 3000 年もの昔に書かれたにもかかわらず、まったく今日の状況を歌っていたことになります。

そして、昔も今も変わらないのは、人生の誇りとするところは労苦とわざわいであるということです。「世」の人間性は、決して幸福に向かって進化しているとは言えません。それだけに今、私たちも、自分の日、すなわち自分の寿命を考え、神とともに正しく生きる知恵が必要なのではないでしょうか。

～祈り～

主なる神さま。この尊い人生を、その一日一日の大切さを覚えながら、あなたとともにふさわしく生きることが出来る知恵を得させてください。

【学びのために】

(参照区分) 1-12 節 永遠の神、3-12 節 人間のはかない生活、13-17 節 あわれみを求める祈り。